

# 基礎研 レポート

## マイナンバーカード取得状況と 使途・今後利用したいサービス

保険研究部 主任研究員 村松 容子  
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

### 1—はじめに

マイナンバーの通知が2015年10月から開始し、マイナンバーカードの交付が2016年1月に始まった。しかし、カードの普及は進んでおらず、2023年3月に、ほぼすべての住民が保有するという国の目標には遠い状況にある。マイナンバーカードの使途を広報するほか、2度にわたるマイナポイント事業を通じて、2022年10月によりやく交付率が50%を超えた<sup>1</sup>。

ニッセイ基礎研究所が2022年9月末に行ったインターネット調査<sup>2</sup>では、マイナンバーカードを取得する予定がない人は18.7%にのぼった。また、取得者のこれまでの利用経験では「マイナポイントの取得」がもっとも高く、既に取得していてもマイナポイントの取得を含めてまだ何にも使ったことがない人が18.9%いた。そのうち、67.4%が今後も使う予定がないと回答しており、マイナンバーカードの利用イメージを持っていない人もいるようだ。

本稿では、上記調査の結果からマイナンバーカード取得者の属性と、取得時期やこれまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面を紹介し、既にカードを取得している人の特徴をみる。さらに、今後申請予定の人を含めて、利用したいサービスや場面をみることで、今後の普及を展望したい。

なお、本稿で使用する調査は、2022年9月27日～10月3日に実施したインターネット調査である。マイナンバーカードを保険証として医療機関を受診する場合に初診料・再診料の負担が重くなる「逆インセンティブ」が10月以降解消されることが報道された後、現在の保険証廃止の議論が出る前に行ったものである。

<sup>1</sup> 2022年10月16日 日本経済新聞「マイナカード交付5割超す 22年度末目標達成遠く」等。

<sup>2</sup> ニッセイ基礎研究所「[第10回新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査](https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=64814?site=nli)」。全国の20～74歳の男女を対象に2022年9月27日～10月3日に実施。有効回答数2,557。詳細はニッセイ基礎研究所「[新型コロナウイルスによる暮らしの変化に関する調査](https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=64814?site=nli)」をご参照ください。

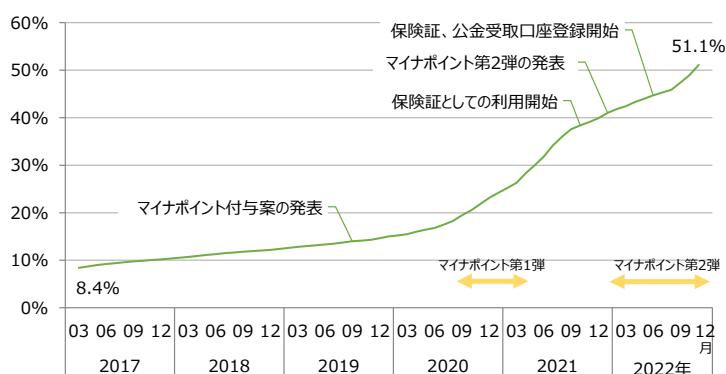
## 2—マイナンバーカード取得状況

### 1 | 国全体での交付率の推移

国全体のマイナンバーカード交付率（交付枚数/人口）の推移を図表1に示す。

マイナンバーカードの交付は2016年1月から始まったが、交付率は低迷していた。カード取得促進のために実施したマイナポイント事業（第1弾は2020年9月開始、第2弾は2022年1月開始）を経て、2022年10月19日によく50%を超えた（10月末に51.1%）。その間、2021年10月には健康保険証としての利用<sup>3</sup>が、2022年6月には保険証、公金受取口座の登録が開始している。

図表1 マイナンバーカード交付率の推移



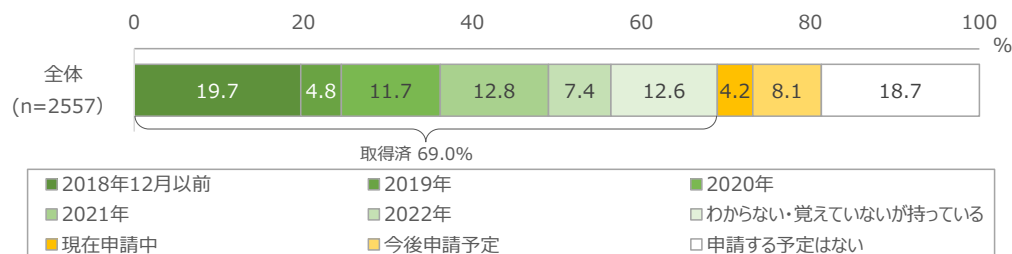
（注）交付率=交付枚数/人口

（資料）総務省「マイナンバーカード交付状況について」

### 2 | 本稿で使用したデータにおける取得状況

2022年9月27日～10月3日に、ニッセイ基礎研究所が実施したインターネット調査において、マイナンバーカードを既に取得している割合は全体の69.0%、「現在申請中」は4.2%、「今後申請予定」は8.1%だった（図表2）。一方、「申請する予定はない」は18.7%だった。

図表2 マイナンバーカード取得状況と今後の意向



（資料）ニッセイ基礎研究所「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

今回の調査によるマイナンバーカード取得率を、国全体の交付率と比較するため、2022年9月末の国全体の交付率（49.0%）を調査の対象と同じ20～74歳に絞って集計すると50.7%だったことから、本稿で使用する調査対象者の取得率は、国全体を大幅に上回っていた。理由として、本調査は調査会社に登録しているモニタを対象とするインターネット調査であることから、対象者は、相対的に活動的であり、デジタル化、オンライン化に親しみをもつ層が回答していること<sup>4</sup>が考えられる。しかし、

<sup>3</sup> 村松容子「10月からオンライン資格確認本格運用」ニッセイ基礎研究所 保険・年金フォーカス（2021年7月27日）

<sup>4</sup> 例えば、同調査で「オンライン化やキャッシュレス化が進むことで様々なサービスが利用しにくくなる」に対して、「あ

普及に向けた課題についての示唆を得られるものと考えて、以下では、このデータを使って分析を行う。

### 3—取得率と、これまでにカードを使用したサービスや場面

#### 1 | マイナンバーカード取得率と取得時期

性別、年齢別、および職業別の取得率、および取得者の取得時期は図表3のとおりだった。

性別にみると、取得率に大きな差はないが、男性の取得時期は「2019年以前」が高く、早い時期に取得した人が多かった。女性は「現在申請中・今後申請予定」が高い。年齢別にみると、年齢が高いほど取得率が高いほか、「2019年以前」が高く、早い時期に取得していた。また、「今後申請する予定はない」は、年齢が低いほど高い傾向があり、49歳以下では2割を超えていた。職業別にみると、取得率は公務員が76.8%と高かった。「2019年以前」が高かったのは自営業・自由業で、37.1%にのぼった。世帯年収別にみると、取得率は800万円以上で高かった。取得時期は800万円以上と400万円未満で「2019年以前」が高く、取得時期が早かった。400～800万円未満は、「2020～2021年」と「現在申請中・今後申請予定」が全体と比べて高かった。

図表3 マイナンバーカード取得率

	N	取得率	取得時期				現在申請中・今後申請予定	今後申請しない
			2019年以前	2020年	2021年	2022年		
全体	2,557	69.0	24.6	24.5	7.4	12.6	12.3	18.7
性別								
男性	1,265	70.8	26.6+	25.5	6.6	12.1	10.9-	18.3
女性	1,292	67.3	22.5-	23.5	8.0	13.2	13.6+	19.1
年齢別								
20～34歳	495	65.3-	18.6-	22.8	7.3	16.6+	13.7	21.0
35～49歳	750	65.7-	19.9-	24.4	7.6	13.9	14.0	20.3
50～64歳	829	69.7	26.8	24.2	7.4	11.3	11.3	18.9
65～74歳	483	76.8+	34.2+	26.7	7.0	8.9-	9.7	13.5-
職業別								
公務員	211	76.8+	28.4	30.8+	6.2	11.4	9.5	13.7
会社員	922	68.0	23.6	25.5	7.0	11.8	14.3+	17.7
パート・アルバイト	366	66.7	19.7-	23.8	7.1	16.1+	14.2	19.1
自営業・自由業	202	70.3	37.1+	20.3	5.9	6.9-	7.4-	22.3
無職・専業主婦(夫)	816	69.0	24.0	22.8	8.3	13.8	11.0	20.0
学生	21	52.4	9.5	28.6	4.8	9.5	14.3	33.3
世帯年収								
400万円未満	718	70.5	27.4+	22.6	8.1	12.4	9.9-	19.6
400～800万円未満	860	70.0	23.3	29.0+	7.1	10.7-	14.3+	15.7-
800万円以上	443	74.0+	29.1+	27.1	6.5	11.3	11.3	14.7-
わからない・無回答	536	61.4-	19.0-	17.7-	7.5	17.2+	13.1	25.6+

(注) 全体と比べて有意差がある数値に± (有意水準5%)  
 (資料) ニッセイ基礎研究所「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

#### 2 | これまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面

次に、既にカードを取得している1765人(全体の69.0%)に対して、これまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面を尋ねたところ、全体で高い順に「マイナポイントの取得」で61.0%、次いで「身分証明書として提示(34.6%)」「行政手続き・各種証明書の発行(31.0%)」「マイナポータルを使ったサービス<sup>5</sup>(16.7%)」だった(図表4)。「健康保険証として医療機関や薬局で使用」は5.4%にとどまった。一方、「いずれもなし」も18.9%を占めた。

まり不安ではない」または「全く不安ではない」と回答した人の取得率は72.3%と対象者全体を上回る。

<sup>5</sup> 「年末調整や確定申告」「行政からのお知らせの閲覧」「受診歴、予防接種歴、健康診断結果の閲覧」「年金の相談や照会」「児童手当や保育所入所の申請」「障害福祉サービス、介護サービス利用の申請」のいずれかを使っている場合とした。

以下、比較的利用経験があった項目について全体との差をみる。まず、性別にみると、男性は「マイナポータルを使ったサービス」が高かった。マイナポータルを使ったサービスの中では、「年末調整や確定申告」や「行政からのお知らせの閲覧」を利用している割合が高かった。女性は、「身分証明書として提示」が高かった。年齢別にみると、20～34歳では「身分証明書として提示」のほか、マイナポータルを使ったサービスのうち「行政からのお知らせの閲覧」等、および「健康保険証として医療機関や薬局で使用」が高かった。50～64歳では「マイナポイントの取得」が高かった。「マイナポイントの取得」は65～74歳でも比較的高く、中高年で高い傾向がみられた。また、若年ほど「いずれもなし」が高く、利用した経験が低かった。職業別にみると、自営業・自由業で「行政手続き・各種証明書の発行」や「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」が高く、無職・専業主婦（夫）で「マイナポイントの取得」が高かった。また、公務員では「いずれもなし」が高かった。世帯年収別にみると、400万円未満で「身分証明書として提示」が高く、400万円以上で「行政手続き・各種証明書の発行」が高かった。400～800万円では「健康保険証として医療機関や薬局で使用」、800万円以上で「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」も、それぞれ高かった。年収が高いほど「いずれもなし」が低く、何らかのサービスを利用している傾向があった。

図表4 これまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面（性、年齢、職業別、世帯年収別）

	N	取得 マイ ナ ポ イ ン ト の	提 示 身 分 証 明 書 と し て	証 明 書 の 手 続 き ・ 各 種	使 マ イ ナ ポ ー タ ル を	申	ら	行	結	種	受	会	年	所	児	ス	障	使	医	健	先	入	職	そ	い
						年	政	果	歴	診	金	入	利	用	療	康	入	館	員	他	ず				
全体	1,765	61.0	34.6	31.0	16.7	11.0	5.6	2.8	2.2	1.0	0.8	5.4	1.5	0.1	18.9	(%)									
性別																									
男性	896	60.6	31.7-	32.4	18.9+	13.3+	6.9+	2.3	2.2	0.7	0.7	6.1	1.1	0.2	18.9										
女性	869	61.4	37.6+	29.7	14.5-	8.7-	4.3-	3.3	2.1	1.3	0.9	4.6	1.8	0.0	19.0										
年齢																									
20～34歳	323	46.7-	40.2+	31.3	14.2	8.0	8.4+	3.4	1.5	1.2	1.9+	9.0+	1.9	0.0	22.9+										
35～49歳	493	61.9	32.7	28.0	15.6	9.9	5.7	2.4	1.6	2.0+	0.8	5.1	1.2	0.0	20.3										
50～64歳	578	65.6+	33.0	33.0	18.3	12.3	5.2	2.9	2.8	0.5	0.5	2.9-	1.7	0.3	17.0										
65～74歳	371	65.2	34.8	31.8	17.8	13.2	3.8	2.7	2.4	0.0-	0.3	6.5	1.1	0.0	16.7										
職業																									
公務員	162	56.8	28.4	33.3	20.4	14.2	8.6	1.9	1.9	1.9	0.6	7.4	1.2	0.0	25.3+										
会社員	627	58.2	34.1	33.7	16.9	11.0	6.7	4.0+	2.4	1.3	1.3	6.7	2.2	0.3+	18.7										
パート・アルバイト	244	63.1	39.3	29.5	15.6	8.2	4.5	4.1	3.3	0.8	1.2	4.5	2.5	0.0	16.0										
自営業・自由業	142	59.2	33.1	40.8+	24.6+	22.5+	4.9	0.7	0.7	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	19.7										
無職・専業主婦（夫）	563	64.8+	35.0	26.1-	13.7-	8.5-	3.7-	1.6-	2.0	0.7	0.4	3.7-	0.5-	0.0	18.7										
世帯 年収																									
400万円未満	506	61.3	38.3+	27.1-	16.4	10.7	5.9	3.0	2.6	0.4	0.2	4.7	0.6-	0.2	20.6										
400～800万円未満	602	62.6	33.6	35.2+	16.3	10.3	5.3	2.0	2.3	1.8+	0.8	7.1+	1.7	0.0	15.6-										
800万円以上	328	65.5	34.5	38.1+	21.0+	14.9+	6.4	4.0	2.4	0.9	1.2	5.2	1.8	0.3	14.9-										
わからない・無回答	329	53.2-	31.0	22.5-	13.7	9.1	4.9	3.0	0.9	0.3	1.2	3.3	2.1	0.0	26.4+										

（注）全体と比べて有意差がある数値に±（有意水準5%）

（資料）ニッセイ基礎研究所「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

つづいて、取得時期、暮らし向き<sup>6</sup>、持病等の有無<sup>7</sup>、オンライン化等（オンライン化やキャッシュレス化が進むことで様々なサービスが利用しにくくなること）に対する不安<sup>8</sup>などのマイナンバーカードの使用と関連しそうないくつかの項目別にみた結果を図表5に示す。

図表5 これまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面（取得時期、暮らし向き、持病等、オンライン化等への不安別）

	N	取得 マイ ナ ボ イ ン ト の	提 示 分 明 書 と し て	証 明 書 の 続 行 ・ 各 種	使 マ イ ナ ボ イ ン ト を	申 告 年 末 調 整 や 確 定	ら 行 政 の 関 覧 の お 知	結 果 の 関 覧 予 防 断	受 診 歴 、 健 康 予 防	会 金 の 相 談 や 照	所 入 手 当 の 申 請 や 保 育	ス ト レ ス の 申 請 サ ー ビ ス	障 害 福 祉 サ ー ビ ス	使 用 医 療 機 関 や 薬 局 で	健 康 保 険 証 と し て	先 で の 利 用 と し て	入 館 証 な ど 、 所 属 、	職 員 証 や 学 生 証、	そ の 他	い ず れ も な し	(%)
取得 時期	2019年以前	628	63.2	44.1+	42.8+	26.3+	18.6+	8.1+	3.7	2.9	0.8	0.6	5.4	2.2	0.0	11.1-					
	2020~2021年	626	65.5+	32.7	28.0-	14.2-	8.5-	5.8	3.4	2.6	1.6	1.1	6.4	1.0	0.3+	17.3					
	2022年	188	53.7-	18.1-	11.2-	7.4-	3.2-	4.3	1.1	0.5	1.1	1.1	6.4	0.5	0.0	33.0+					
	わからない・覚えていない	323	52.3-	29.4-	25.7-	8.4-	5.9-	1.2-	1.2	0.9	0.0-	0.3	2.8-	1.5	0.0	29.1+					
暮らし 向き	ゆとりがある計	504	65.5+	36.7	33.1	23.2+	14.5+	9.5+	4.8+	2.8	1.6	1.6+	6.0	2.4+	0.2	13.5-					
	ゆとりがない計	730	60.8	35.6	31.0	14.2-	9.9	4.5	2.1	1.8	0.8	0.4	4.5	1.1	0.0	20.4					
持病 等	持病あり	492	68.9+	32.7	34.1	20.3+	13.8+	6.7	3.7	3.7+	1.0	1.2	7.5+	1.4	0.2	14.2-					
	妊娠中・授乳中	30	66.7	50.0	46.7	20.0	13.3	3.3	3.3	0.0	3.3	3.3	6.7	10.0+	0.0	13.3					
	アレルギーあり	108	66.7	40.7	33.3	14.8	9.3	3.7	1.9	3.7	0.0	0.9	5.6	2.8	0.0	11.1-					
	あてはまるものはない	1,046	59.7	34.9	31.3	16.1	10.7	5.5	2.8	1.6-	1.0	0.7	4.8	1.4	0.1	19.6					
オンライ ン化等	不安なし計	717	70.7+	33.9	34.4+	21.1+	14.4+	6.7	2.6	2.5	1.0	0.0-	5.0	1.7	0.3+	14.6-					
	不安あり計	445	50.8-	38.0	31.2	14.4	9.2	4.9	4.5+	2.0	1.8+	2.2+	8.5+	2.0	0.0	20.7					

(注1) 暮らし向きは、現在の暮らし向き（経済状況）について、「ゆとりがある」または「ややゆとりがある」と回答した場合は「ゆとりがある計」、「あまりゆとりがない」または「ゆとりがない」と回答した場合は「ゆとりがない計」とした。持病等の有無は、現在、「心疾患・脳血管疾患・糖尿病・高血圧・呼吸器疾患などの持病がある」または「免疫系の持病（治療中の悪性腫瘍を含む）がある、または、免疫の機能を低下させる治療（ステロイドなど）を受けている」または「上記以外の持病がある」と回答した場合は「持病あり」、「妊娠中である・授乳中である」と回答した場合は「妊娠中・授乳中」、「これまで食品や薬物にアレルギー反応を起こしたことがある」と回答した場合は「アレルギーあり」、これらいずれもあてはまらない場合は「あてはまるものはない」とした。オンライン化等に対する不安は、「オンライン化やキャッシュレス化が進むことで様々なサービスが利用しにくくなる」について、「あまり不安ではない」または「全く不安ではない」と回答した場合は「不安なし計」、「非常に不安」または「やや不安」と回答した場合は「不安あり計」とした。

(注2) 全体と比べて有意差がある数値に±（有意水準5%）

(資料) ニッセイ基礎研究所「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

取得時期別にみると、早い段階で取得した人ほど、「いずれもなし」が低く、何らかのサービスや場面でカードを使っている傾向があった。2019年以前では、特に、「身分証明書として提示」「行政手続

<sup>6</sup> 現在の暮らし向き（経済状況）について、「ゆとりがある」または「ややゆとりがある」と回答した場合は「ゆとりがある計（全体の25.7%）」、「あまりゆとりがない」または「ゆとりがない」と回答した場合は「ゆとりがない計（全体の43.5%）」とした。

<sup>7</sup> 現在、「心疾患・脳血管疾患・糖尿病・高血圧・呼吸器疾患などの持病がある」または「免疫系の持病（治療中の悪性腫瘍を含む）がある、または、免疫の機能を低下させる治療（ステロイドなど）を受けている」または「上記以外の持病がある」と回答した場合は「持病あり（全体の19.2%）」、「妊娠中である・授乳中である」と回答した場合は「妊娠中・授乳中（全体の1.4%）」、「これまで食品や薬物にアレルギー反応を起こしたことがある」と回答した場合は「アレルギーあり（全体の4.2%）」、これらいずれもあてはまらない場合は「あてはまるものはない（全体の40.9%）」とした。

<sup>8</sup> 「オンライン化やキャッシュレス化が進むことで様々なサービスが利用しにくくなる」について、「非常に不安」または「やや不安」と回答した場合は「不安あり計（全体の17.4%）」、「あまり不安ではない」または「全く不安ではない」と回答した場合は「不安なし計（全体の28.0%）」とした。

き・各種証明書の発行」「マイナポータルを使ったサービス」、マイナポータルを使った「年末調整や確定申告」「行政からのお知らせの閲覧」が、2020～2021年では「マイナポイントの取得」が、それぞれ高かった。暮らし向きでみると、ゆとりがある人でカードを使用している傾向があり、「マイナポイントの取得」「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」「行政からのお知らせの閲覧」等が高かった。持病等の有無でみると、持病がある人で「マイナポイントの取得」と「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」等、および「健康保険証として医療機関や薬局で使用」が高かった。オンライン化等に対する不安の有無でみると、不安がない人で「いずれもなし」が低く、何らかのサービスを利用しており、「マイナポイントの取得」「行政手続き・各種証明書の発行」「マイナポータルを使ったサービス」、マイナポータルを使った「年末調整や確定申告」が高かった。不安がある人では、マイナポイントの取得は50.8%と、不安がない人と比べて20ポイント近く低かった。不安がある人では、マイナポータルを使った「受診歴、予防接種歴、健康診断結果の閲覧」等、および「健康保険証として医療機関や薬局で使用」が高かった。

### 3 | マイナンバーカード取得者の特徴

マイナンバーカード取得率や取得時期と、取得者がこれまでに使用したサービスや場面をあわせてみると、マイナポイント事業が始まる前（2019年以前）に取得していた人は、身分証明書として、あるいは行政手続き、年末調整や確定申告等に利用していた。高年齢者や自営業・自由業者が多いのはこういった行政手続きを自分で行う必要があるからだと考えられる。また、マイナポイントは、ポイント事業が始まった2020年ごろに取得した人で特に多い。それ以外のサービスや場面では、取得時期によらず、あまり利用されていなかった。公務員は、職場を通じてカード取得を促進していたことから取得している人が多い可能性がある<sup>9</sup>。

マイナポイントは、マイナンバーカード取得者の61.0%がもっており、マイナンバーカード普及促進にも効果があったとされる<sup>10</sup>が、中高年層、無職・専業主婦（夫）、暮らし向きにゆとりがある人、オンライン化やキャッシュレス化が進むことで様々なサービスが利用しにくくなることへの不安がない人で特に取得している人が多く、受け取った人には偏りがあるようだ。

### 4——今後マイナンバーカードを使って利用したいサービスや場面

マイナンバーカードを「現在申請中・今後申請予定」と回答した314人を加えた2079人を対象に、今後マイナンバーカードを使って利用したいサービスや場面を尋ねたところ、全体で高い順に「身分証明書として提示」で51.3%、次いで「行政手続き・各種証明書の発行（48.1%）」「マイナポイントの取得（43.7%）」「健康保険証として医療機関や薬局で使用（30.8%）」だった（図表6）。今後一体化することになっている「運転免許証として利用」は11.8%だった。

<sup>9</sup> 2019年8月20日 東京新聞「全公務員、マイナンバーカード 年度内取得 事実上強制」等

<sup>10</sup> [清水仁志「マイナポイント等がマイナンバーカード取得に与えた効果と、普及に向けた課題」ニッセイ基礎研究所 基礎研レター（2021年5月7日）](#)

以下、比較的利用意向があった項目について全体との差をみる。まず、性別にみると、男性でマイナポータルを使った「行政からののお知らせの閲覧」等、および「健康保険証として医療機関や薬局で使用」や「運転免許証として利用」が高く、女性で「身分証明書として提示」が高かった。年齢別にみると、若いほど「いずれもなし」が高く、利用意向が低かった。35～49歳で「マイナポイントの取得」が、50～74歳で「行政手続き・各種証明書の発行」が、50～64歳で「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」「年金の相談や照会」のほか「運転免許証として利用」が、65～74歳で「身分証明書として提示」や「健康保険証として医療機関や薬局で使用」が、それぞれ高かった。職業別にみると、パート・アルバイトで「身分証明書として提示」が、自営業・自由業で「行政手続き・各種証明書の発行」、「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」が、それぞれ高かった。世帯年収では、年収が高いほど「いずれもなし」が低く、利用意向がみられ、800万円以上で「マイナポイントの取得」「マイナポータルを使ったサービス」、特に「年末調整や確定申告」が、それぞれ高かった。

図表6 今後マイナンバーカードを使って利用したいサービスや場面（性、年齢、職業別）

※これまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面で高い順

	N	取得 マイ ナ ポ イ ン ト の	提 示 身 分 証 明 書 と し て	証 明 書 の 発 行 ・ 各 種	使 マ イ ナ ポ ー タ ル を 使 っ た サ ー ビ ス を	申	年	ら	行	結	種	受	会	年	所	児	ス	障	使	健	先	入	職	利	運	そ	い
						告	末	の	政	果	歴	診	金	入	利	害	用	療	康	館	員	用	機	保	の	証	用
						整	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
全体	2,079	43.7	51.3	48.1	23.5	15.9	8.1	10.5	7.6	2.9	4.4	30.8	4.3	11.8	0.1	18.0	(%)										
性別	男性	1,034	45.1	48.5-	47.0	24.3	17.1	9.7+	10.5	8.0	3.8+	4.9	33.2+	5.4+	14.5+	0.1	19.4										
	女性	1,045	42.3	54.0+	49.3	22.7	14.6	6.5-	10.4	7.2	2.0-	3.8	28.5-	3.3-	9.2-	0.1	16.6										
年齢	20～34歳	391	41.7	50.9	38.6-	21.5	14.1	8.7	8.7	4.6-	5.6+	5.1	23.8-	4.9	9.0	0.0	21.5+										
	35～49歳	598	48.3+	46.5-	42.1-	20.2-	14.2	7.7	8.5	5.9	4.3+	3.8	27.1-	4.8	11.5	0.0	21.2+										
	50～64歳	672	44.9	51.8	52.2+	27.1+	18.6+	8.5	11.8	11.9+	1.6-	5.4	32.1	4.3	14.3+	0.3+	15.5-										
	65～74歳	418	36.8-	57.7+	59.1+	24.2	15.6	7.4	12.9	6.0	0.2-	2.9	40.7+	3.1	11.0	0.0	14.1-										
職業	公務員	182	49.5	45.1	46.7	25.3	18.7	11.0	14.3	11.0	8.2+	7.1	31.3	8.2+	14.3	0.0	22.0										
	会社員	759	45.5	47.8-	44.4-	22.3	15.9	9.4	10.4	7.4	4.1+	4.6	27.1-	6.9+	11.6	0.1	19.6										
	パート・アルバイト	296	44.6	59.1+	47.6	24.3	16.6	7.1	9.1	9.5	1.0-	3.4	30.7	2.7	9.8	0.0	13.9-										
	自営業・自由業	157	43.9	49.7	58.0+	30.6+	25.5+	8.9	10.8	6.4	1.9	1.9	36.3	1.3	14.0	0.0	16.6										
	無職・専業主婦（夫）	653	39.1-	53.8	51.1	22.1	12.3-	6.1-	10.0	6.6	1.1-	4.1	33.2	1.4-	11.9	0.2	17.2										
世帯 年収	400万円未満	577	39.9-	52.7	47.8	22.9	14.4	8.7	10.9	6.8	1.0-	3.6	31.4	3.3	10.4	0.2	20.1										
	400～800万円未満	725	45.0	52.3	50.1	23.7	15.9	8.1	9.8	8.1	4.3+	4.8	30.9	5.1	13.0	0.0	15.7-										
	800万円以上	378	50.5+	52.4	51.6	27.5+	21.4+	8.2	11.4	9.5	4.0	5.8	33.1	4.5	14.6	0.0	13.5-										
	わからない・無回答	399	40.4	46.4-	41.9-	20.1	12.8	7.0	10.3	6.0	2.0	3.3	27.8	4.3	9.3	0.3	23.3+										

（注）全体と比べて有意差がある数値に±（有意水準5%）

（資料）ニッセイ基礎研究所「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

つづいて、取得時期、暮らし向き、持病等の有無、オンライン化等に対する不安別にみた結果を図表7に示す。

取得済／現在申請中・今後申請予定の別でみると、現在申請中・今後申請予定の人は「いずれもなし」が低く、多くの項目で全体を上回ったが、「マイナポータルを使ったサービス」は取得済の人が全

体を上回った。取得済の人について、取得時期別にみると、取得時期が古い人で「いずれもなし」が低く、利用意向が高い傾向があった。暮らし向きでみると多くの項目で、ゆとりがある人が全体を上回った。特に「健康保険証として医療機関や薬局で使用」で差は大きく、ゆとりがある人はゆとりがない人を10ポイント近く上回った。持病等の有無別にみると、持病ありで「行政手続き・各種証明書の発行」、マイナポータルを使った「受診歴、予防接種歴、健康診断結果の閲覧」、および「健康保険証として医療機関や薬局で使用」が、持病等がない（あてはまるものはない）人で「マイナポイントの取得」が、それぞれ高かった。オンライン化等に対する不安の有無でみると、いずれの項目で不案がない人が全体を上回った。特に「行政手続き・各種証明書の発行」や「マイナポータルを使ったサービス」等のオンラインサービスの利用で差は大きく、不安がある人は不安がない人を10ポイント前後下回った。

図表7 今後マイナンバーカードを使って利用したいサービスや場面（取得時期、暮らし向き、持病等、オンライン化等への不安別） ※これまでにマイナンバーカードを使って利用したサービスや場面で高い順

	N	取得 マイ ナ ポ イ ン ト の	提 身 分 証 明 書 と し て	証 明 政 書 の 続 き 行 ・ 各 種	使 マ ッ イ ナ ポ ー タ ル を	申	ら	行	結	種	受	会	年	所	児	ス	障	使	健	先	職	利	運	そ	い	
						年	告	未	せ	政	果	歴	診	金	入	童	利	害	用	療	康	入	館	員	用	免
						告	未	調	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
全体	2,079	43.7	51.3	48.1	23.5	15.9	8.1	10.5	7.6	2.9	4.4	30.8	4.3	11.8	0.1	18.0	(%)									
取得 時期	2019年以前	628	43.8	56.7+	56.1+	32.5+	22.9+	11.8+	14.0+	9.7+	3.3	4.9	34.2+	5.9+	12.7	0.0	13.4-									
	2020~2021年	626	45.8	50.3	47.1	24.0	15.8	9.1	11.7	8.3	3.2	5.0	31.6	4.0	12.8	0.2	16.9									
	2022年	188	33.0-	37.8-	38.8-	17.0-	12.2	5.3	9.0	7.4	2.7	4.3	27.1	5.3	9.0	0.5	27.7+									
	わからない・覚えていない	323	32.8-	38.4-	38.4-	15.2-	9.3-	3.7-	4.6-	4.3-	1.5	2.5	18.6-	2.8	8.7	0.0	29.4+									
	取得済計	1,765	41.4-	49.1-	47.8	24.6+	16.8+	8.7+	10.9	8.0	2.9	4.4	29.7-	4.6	11.6	0.1	19.1+									
現在申請中・今後申請予定	314	56.7+	63.7+	50.0	16.9-	10.8-	4.8-	8.0	5.4	2.9	4.1	37.3+	2.9	13.1	0.0	11.8-										
暮らし 向き	ゆとりがある計	577	47.5+	57.2+	52.3+	26.9+	20.1+	9.0	12.7+	8.5	2.8	4.9	37.1+	5.0	14.0	0.0	12.0-									
	ゆとりがない計	876	43.5	49.7	47.4	22.0	14.0-	8.4	9.5	7.0	2.4	4.2	28.2-	4.5	10.6	0.1	19.7									
持病 等	持病あり	550	42.0	50.9	54.2+	26.5	16.9	8.9	12.9+	8.7	1.3-	5.3	38.0+	4.7	13.1	0.2	15.1-									
	妊娠中・授乳中	34	61.8+	55.9	58.8	23.5	20.6	8.8	11.8	0.0	5.9	0.0	32.4	5.9	5.9	0.0	11.8									
	アレルギーあり	131	38.9	58.0	54.2	26.7	17.6	7.6	9.9	9.2	3.8	4.6	26.0	6.1	10.7	0.0	14.5									
	あてはまるものはない	1,256	45.6+	52.0	47.6	23.6	16.3	8.2	10.5	7.6	3.6+	4.1	29.7	4.1	11.9	0.1	17.8									
オンライ ン化等	不安なし計	831	48.6+	54.6+	56.2+	30.0+	21.4+	9.9+	15.0+	10.0+	3.2	4.6	36.3+	4.9	15.0+	0.2	14.7-									
	不安あり計	522	42.7	49.8	42.7-	20.9	12.6-	8.6	8.8	6.5	4.2+	5.0	28.9	5.0	10.5	0.0	17.4									

(注1) 暮らし向きは、現在の暮らし向き（経済状況）について、「ゆとりがある」または「ややゆとりがある」と回答した場合を「ゆとりがある計」、「あまりゆとりがない」または「ゆとりがない」と回答した場合を「ゆとりがない計」とした。持病等の有無は、現在、「心疾患・脳血管疾患・糖尿病・高血圧・呼吸器疾患などの持病がある」または「免疫系の持病（治療中の悪性腫瘍を含む）がある、または、免疫の機能を低下させる治療（ステロイドなど）を受けている」または「上記以外の持病がある」と回答した場合を「持病あり」、「妊娠中である・授乳中である」と回答した場合を「妊娠中・授乳中」、「これまで食品や薬物にアレルギー反応を起こしたことがある」と回答した場合を「アレルギーあり」、これらいずれもあてはまらない場合を「あてはまるものはない」とした。オンライン化等に対する不安は、「オンライン化やキャッシュレス化が進むことで様々なサービスが利用しにくくなる」について、「あまり不安ではない」または「全く不安ではない」と回答した場合を「不安なし計」、「非常に不安」または「やや不安」と回答した場合を「不安あり計」とした。

(注2) 全体と比べて有意差がある数値に±（有意水準5%）

(資料) ニッセイ基礎研究所「第10回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」

図表4、5のこれまでの利用経験と比べると、「マイナポイントの取得」は、既に第2弾も取得して



いる人がいると考えられることから低くなっていたが、それ以外はいずれも今後の利用意向の方が高い。ただし、「いずれもなし」はこれまでの利用経験と同程度の高さとなっており、利用意向がない人は、今後に向けても一定程度いるようだ。

2024年秋に原則一本化される健康保険証としての利用は30.8%で、これまでの利用経験と比べて大幅に上昇した。特に、65～74歳の人や持病がある人で高い傾向があった。これらの医療機関や薬局にかかる機会が多いと考えられる人で、保険証としての利用に期待がある可能性がある。

また、マイナポータルの利用については他のサービスと比べると上昇幅は6.8ポイントと比較的小さかったが、「受診歴、予防接種歴、健康診断結果の閲覧」については65～74歳が、「年金の相談や照会」については50～64歳の定年前後と思われる年代での利用意向が相対的に高かった。今後の利用においても、これまでの利用経験と同様に、暮らし向きにゆとりがある人、オンライン化等に対する不安がない人で、それぞれゆとりがない人や不安がある人と比べてより高かった。

なお、本稿で使用する調査は、まだ、現在の保険証廃止の議論が出る前に行ったものであることから、原則として2024年秋に廃止されることが決まっているとすれば、ポイントがもらえるうちに申請する人がいると思われ、現在はこの調査時点と比べて取得意向やマイナポイント取得意向は上がっている可能性がある。

## 5—おわりに

以上のとおり、本稿では、9月末に実施したインターネット調査の結果を使って、マイナンバーカードの取得状況と、これまでの利用状況、今後の利用意向について紹介した。

マイナンバーカードは、本稿で使った調査では61.0%が取得しており、65～74歳、公務員や自営業・自由業者、世帯年収800万円以上で高かった。マイナポイント事業が始まる前（2019年以前）に取得していた人では、身分証明書としての利用のほか、行政手続き、年末調整や確定申告等に利用していた。これらの人は、今後についても、同様の使途で利用意向が高い傾向があり、マイナンバーカードが手続き等に便利だったと考えられる。今後については、50～64歳でマイナポータルを使ったサービスの利用意向が高く、リタイヤにともなって発生する各種行政手続きや年金の相談等での活用があり得る。

保険証としての利用は、保険証として登録ができるようになってまだ日が浅いこと、対応している医療機関が限定されること、従来の保険証と比べると初診料・再診料が高かったことなどを背景に、現在のところは5.4%に留まった。しかし、今後の利用意向は30.8%と高くなっていた。特に、医療機関や薬局の利用が多いと考えられる65～74歳、持病ありの人で利用意向が高かった。従来の保険証を原則として廃止する方針が発表されてから保険証としての利用についての課題が話題になることが多いが、利用に期待する人もいるようだ。

マイナンバーカードは、身分証、保険証、障害者手帳等として提示するほか、マイナポータルを使って、確定申告や受診歴等の閲覧、年金額の確認、児童手当や介護サービス等利用申請ができることがメリットの1つである。しかし、現在のところマイナポータルの利用意向は、古くからマイナンバーカードを使っている人や暮らし向きにゆとりがある人、オンライン化やキャッシュレス化が進むこ

とで様々なサービスが利用しにくくなることへの不安がない人で高いが、これからカードを取得する人、暮らし向きにゆとりがない人、オンライン化等における不安がある人では低く利用意向には偏りがみられ、マイナポータルの全面的な普及には時間がかかりそうだ。今後、マイナポータルに搭載されるサービスは拡充していくと考えられるが、オンラインサービスに慣れ親しんでいない人もメリットを享受できるような運用に期待したい。

今回利用した調査は、インターネット調査であり、デジタル化やオンラインによるサービス利用に親しみがある層が回答していると考えられるが、それでも、カードの取得や利用に慎重な考えをもつ人があると思われる。今回、カード取得については、マイナポイント事業やメディアを使った広報活動、申請窓口の増設等によって進んだとしても、約5年後には電子証明書の更新を自分で行う必要がある。今回の調査では対象となっていない75歳以上を含めて、利用や更新がスムーズにできるようなシステム構築と運用が求められるだろう。